

第43回水の作文コンクール 審査評(優秀賞)

| 賞                          | 題名<br>学校名・学年<br>氏名                         | 審査評                                                                                                 |                                                                                                            |
|----------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中央審査<br>優秀賞<br>地方審査<br>優秀賞 | 潤う未来<br>喜界町立喜界中学校・3年<br>喜禎 あさひ             | 今、現在ある地下ダムへの期待や、今から作られる第2地下ダムへの島民の期待などがよく伝わる作品です。特に父の言葉から、さらに水を大切にしていこうという気持ちの高まりが感じられる構成になっています。   | 郷土喜界島の未来を思う気持ちが素直な文章で綴られている。「地下ダム」という聞き慣れない言葉であるが、水とともに繁栄してきた喜界島になくてはならないものであることが分かる。未来を思い行動している筆者の姿が目浮かぶ。 |
| 地方審査<br>優秀賞                | 守りたい私の島の海<br>三島村立三島片泊学園・7年<br>下戸 良佑        | 自分が住む美しい島、黒島の自然を守りたいという思いから、世界の状況を調べ、具体的に3Rの行動を起こすように呼びかけている作品です。身の周りの自然を守ろうと具体的に行動できていることが素晴らしいです。 | 船から見えた無数のプラスチック。プラスチックを飲み込み、死に至るかもしれない海亀の写真を思い出す。海亀を将来の人間と捉える筆者の感性に驚かされる。黒島の海を守るために努力する筆者の姿が目浮かぶ。          |
| 地方審査<br>優秀賞                | 水とともに生きる<br>学校法人津曲学園鹿児島修学館中学校・1年<br>山本 咲綺恵 | 地域の方々が守り続けている水を大切にするためには、水をコントロールするだけではいけないのではないかという強い思いが伝わってくる作品です。                                | 8.6水害で甚大な被害の基となった甲突川。現在は治水工事等により水をコントロールできている。しかし、筆者は「水とともに生きる」という考え方をもつことが大事だと主張する。結びの甲突池の記述がこの主張を支えている。  |

第43回水の作文コンクール 審査評(入選)

| 賞          | 題名<br>学校名・学年<br>氏名                          | 審査評                                                                                                                 |                                                                                                         |
|------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地方審査<br>入選 | 水への意識を変えて<br>三島村立三島片泊学園・8年<br>永田 結夢         | 水との関わりを歴史的な視点で捉えたり、島での日常を振り返ったりして水の大切さを伝えている作品です。現状を知ることの大切さが伝わってきます。                                               | 郷土の先人が成し遂げた数々の功績から始まり、郷土黒島の方々の水に対する実践。未来にまで思いを馳せる筆者の姿。水を大切に考える筆者の主張が構成の工夫により述べられている。結びの一文が筆者の姿勢を想像させる。  |
| 地方審査<br>入選 | 世界中の当たり前<br>喜界町立喜界中学校・3年<br>瀧元 楓            | テレビで見た内容から、「水が命そのものである。」ということを実感し、さらに調べ、水を飲むことは当たり前ではないということを知っている作品です。具体的に言うことを複数書き、自分にできることを精一杯行おうという強い意志が感じられます。 | 1日8時間かけて水汲みに行く少女の姿を目にして、水の問題に目を向けるようになった筆者。具体的に、節水とユニセフ募金に取り組むことを決意する。私たちの生活は当たり前でないと主張する筆者の姿勢に共感する。    |
| 地方審査<br>入選 | 水資源危機のために<br>学校法人津曲学園鹿児島修学館中学校・3年<br>堀添 謡る美 | 英国でのホームステイの経験から、水の使い方に関する日本人との違いに着目し、水事情の違いを述べている作品です。具体的に自分たちができていることを数多く提案しています。                                  | イギリスでのホームステイを通して、異国と日本の水に対する考え方の違いに気づき、世界の水事情に言及している。現実を知り、自分たちにできることに取り組み、仲間の輪を広げていくことが大切であると主張している。   |
| 地方審査<br>入選 | 命と水の大切さ<br>学校法人志学館学園志学館中等部・3年<br>脇 莉音       | 二つの事例から、水の大切さが伝わる作品となっています。自分が実際行っている節水の取組等が具体的に書けると、より説得力のある作品になると思われます。                                           | 美術の授業で学習した「Qデザイン」から中村哲さんの用水路事業の尊さに気付く筆者。水資源には限界があると考え筆者がまず取り組むべきは節水であると主張する。SDGsの目標が実現することを願わずにはいられない。  |
| 地方審査<br>入選 | 水や山うかけ、人は世間うかけ<br>龍郷町立赤徳中学校・1年<br>四位 碧杜     | 水のありがたみを、島に伝わる昔からの言葉で実感し、自分の人生と重ねて、今の自分のこれからを述べている作品です。水との関わりが具体的にもう少し書けると、さらによい作品になると思われます。                        | 奄美の島口が文題となっており、作品の中心と言っても過言ではない。豊かな自然や郷土の特産物を支えているのは水であり、その水に感謝していることが作品全体から感じられる。水との関わりをもう少し記述すると更によい。 |